

## 第2回基本政策部会における議論のポイント (テーマ:「生活の質を高める」)

### 【越澤委員ペーパー骨子】

「豊かで品格のある道路空間の創造に向けて」

#### 1. 基本的な問題意識と時代認識

「20世紀の道路整備は、量的対応に終始せざるを得ず、質的対応や公共空間の形成は極めて不十分。21世紀初めは、品格、文化、活気と環境に資する都市のシンボルとストックとなる道路整備に着手する絶好の機会であり、集中的な整備が必要。」

#### 2. 取り組むべき基本政策(今後5年間、あるいは10年間取り組むべき基本政策)

- 1) 公共空間である道路と都市の再生・再開発で生み出される民有空間(半公共空間)の一体化的な整備
  - ・河川沿いや駅・線路沿いで、道路・歩行者空間の創造を積極的に図るべき。
- 2) 道路空間と沿道の文化、賑わい、地権者との協働
  - ・十分な歩道を確保し、街路樹が成長しうる道路の整備を図ると同時に、歩行者空間の確保を前提に、沿道のカフェ等の占用も認めるべき。
  - ・街路樹、花の維持管理への地権者の参画をはかり、道路空間を活用したパレードなどのイベント等への道路空間の開放も行うべき。
  - ・道路余剰地の緑地化やその維持管理などには、沿道の市民、高齢者などの積極的な参加を歓迎すべき。
- 3) 都市内の幹線道路の整備による沿道誘発効果
  - ・沿道誘発効果、経済効果の高い市街地では、都市の再生と連動して未整備の幹線道路の事業を集中的に推進すべき。
- 4) 昭和43年以前の都市計画道路に対する国の責務
  - ・国が必要であると判断し、大臣決定した道路であることを踏まえて、国による期限を区切った時限性の積極的な支援が必要不可欠。
  - ・同時に、必要性が薄い都市計画道路については早期見直しを行うべき。
- 5) 密集市街地における生活道路の整備
  - ・密集市街地における地区内の生活道路は、防災性向上及び沿道の建替、更新に伴う誘発効果は大きいため、国の道路政策の対象とすべき。
- 6) 密集市街地、スプロール市街地における準幹線道路・幹線道路の整備、及び沿道の市街地整備との連動・促進。
  - ・密集・スプロール市街地における都市計画道路は、必要な生活幹線道路であるが、未整備区間が多く、実現の目途がたっていない。国はその実現化を積極的に支援するために、時限性の強力な推進が必要。
- 7) 文化遺産としての道路整備哲学の再構築。
  - ・東京の行幸通りや日本橋、横浜の日本大通りなど、道路空間そのものが文化遺産であることを再認識し、その適切な維持管理にあたるとともに、当初の姿の復元、向上を積極的に行うべき。
- 8) 路面電車(トラム)復権への強力推進。
  - ・車道を廃止して路面電車専用としたり、一般自動車の利用制限を行い、歩行者優先の中心市街地を維持している欧州の事例を見習うべき。

## 【主な意見】

### 移動性と多面性（道路の機能）

- ・ 車なしに道路について語る事ができたというところに、本日の越澤委員の提案の新しさがあり、それを認識した上で、道路の最大の機能である移動性と社会資本としての多面性という2つの観点から議論する必要がある。
- ・ 欧米は徹底した車社会であるが、歩行者優先が可能となっている。今後、車なしでは世の中は成り立たず、車社会といかに調和させていくのかが我々のチャレンジ。まず移動性を確保した上で、どこかで妥協することが必要。
- ・ 短期的課題として、渋滞解消をはじめとする移動のツールとしての道路を完成させることが急務。その際、客観的なクライテリアで（対策や箇所を）選択すべき。

### 都市の品格、文化、活気

- ・ 都市はまだ未完成であり、その完成度を高めることが道路行政の責任。
- ・ 都市空間の美しさがないということは大きな問題。見事な景観の中で子供の頃から育った人たちと、ごちゃごちゃしている環境の中で育った人たちとでは発想やスケールに大きな差が出るのではないか。
- ・ 日本には日本固有のすばらしい美意識があり、例えばそれを橋に応用したらどうか、江戸時代の人々が設計したらどのような道路になるのか等を考えることも必要。もっと日本固有のものを配置してもいいのではないか。

### 地域、国土との関係

- ・ 国土全体がどういう姿になりたいのかという全体像が必要である。地元要求、住民要求の裏には政治要求が入っている。本当の地元要求とは何なのかということを見極める新しいしくみが必要ではないか。
- ・ 生活の質を高めるという視点では、遠隔な土地の生活の質をどうするのか。
- ・ 地域計画と道路計画の整合性をとるべき。地域計画をリードする道路計画があってもいいのではないか。

### 公と私、P I

- ・ 「公」と「私」という問題を考えた場合、「公」の範囲を拡大すべき。よりよい「公」を成立させるためのP Iであれば、意味がある。「公」のパワーが小さくなっていることが問題。
- ・ P Iをやるにあたって重要なのは何万人の意見を聞いたということではなく、一人でもいいので光るものを拾い上げることこそ重要。
- ・ 不要な道路を造っているのではないのかという国民の意見に答えるべき。国策として何をやるべきかという視点が重要。平均的なものではなく、先導的に行うもの、これまで見落とされてきたもの。どういう選択肢をとるのかという理由を明確にすべきではないか。